HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	東アジアにおける大規模宗教調査データの蓄積 ： 「台湾社会変遷基本調査」を事例として
Author(s)	寺沢, 重法
Citation	宗教と社会, 21, 65-72
Issue Date	2015-06
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59528
Type	journal article
File Information	terazawa20150708(author version).pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

東アジアにおける大規模宗教調査データの蓄積
―「台湾社会変遷基本調査」を事例として―

寺沢重法*

The Accumulation of a Large Amount of Religious Data in East Asia: An Example of a Survey on Social Change in Taiwan

TERAZAWA Shigenori

1. はじめに

近年の宗教社会学(特に欧米)では大規模社会調査データを用いた計量的研究が大きな潮流となっている。たとえば、世俗化や宗教と社会意識の変容を論じた *Sacred and Secular*［Norris and Inglehart 2011]、宗教市場の開放度と宗教的迫害の関係を論じた *The Price of Freedom Denied*［Grim and Finke 2010]などの近年の重要書は国際比較調査データやマクロデータの二次分析に基づいている。世界数十か国が参加する世界価値観調査や ISSP(International Social Survey Programme)調査の蓄積、アメリカの宗教調査データアーカイブ ARDA(The Association of Religion Data Archives)の設立などがその背景として挙げられる。重厚な二次データの蓄積が計量的研究の進展を支えているといえよう。

こうした研究が蓄積されてはいるもののそのデータと分析はキリスト教を前提としたものが大半である。その一方で非キリスト教文化圏の地域、たとえば東アジア地域の宗教データの蓄積と分析はほとんど行われていない。たとえば、ARDA には約 1000 点の宗教データが寄託されているがほとんどはアメリカのキリスト教を対象としたデータである(1)。また近年の世界価値観調査や ISSP には日本、台湾、韓国も参加しているが、調査票自体がキリスト教を念頭に置いたものであるため、各地域の宗教状況を踏まえた設問であるとは言い難い面もある。

以上の状況を踏まえると、日本を含めた東アジア地域においては、今後各地域の宗教状況を踏まえた宗教調査データを蓄積し、それを一般に利用可能な公共財として広く提供していくことが、各地域の宗教研究を発展させていく上での重要課題であるといえるだろう。

こうした課題に対して 1 つの成功例を示しているのが台湾である。近年の台湾では大規模社会調査データの蓄積と公開が大きく進んでおり、宗教調査データも同様である。その代表的なものが、中央研究院社会学研究所が実施している「台湾社会変遷基本調査」(Taiwan Social Change Survey、以下 TSCS と略す)である。データの蓄積状況と活用例を理解しておくことは、日本も含めた東アジアにおける宗教調査データの蓄積を進展させるうえでの少なからぬ意義をもちうると思われる(2)。　以下本稿では、まず次章で TSCS の概要を述べた後に、宗教関連設問がいつどのような部分で組み込まれているのかを説明する。第 3 章では、最新版の調査票から実際の宗教関連をピックアップし台湾の宗教をどのように測定しているのかその一端を提示する。第 4 章では TSCS を用いて書かれた著作、論文集、学術論文などを提示し、TSCS を用いた計量的宗教研究としてどのようなテーマが扱われ、またどのように研究が展開しているのかを見てみたい(3)。

なお、台湾の宗教はいわゆる「儒仏道」がベースである。TSCS などの調査では、仏教、道教、民間信仰、一貫道、キリスト教、信仰無がそれぞれ約 20%、約 25%、約 30%、約 2%、約 5%、約 20%である。また近年では「四大仏教」と称される仏光山、法鼓山、中台山、慈済会（所属者数はそれぞれ約 3%、約 2%、約 1%、約 10%）

*北海道大学大学院文学研究科・助教・shterazawa@let.hokudai.ac.jp

という仏教団体が影響力をもつ［瞿 2006a］。

2．TSCS

2-1　TSCS とは何か？

TSCS は中央研究院社会学研究所が中華民国行政院国家科学委員会の支援のもと台湾で毎年実施しているサンプリング調査である(第 3 期第 1 次調査以前の調査主体は中央研究院民族学研究所)。TSCS はアメリカの GSS(General Social Survey)を模範として 1985 年から実施されている。ほぼ年に 2 回のペースで家族、ジェンダー、社会階層、文化、ナショナルアイデンティティー、余暇生活、宗教など様々なトピックの調査が、ほぼ 5 年 1 セットのローテーションで繰り返し実施されている(4)。TSCS は台湾を代表する社会調査であるとともに、東アジア最大規模の社会調査データであるとも言われている[Smith et.al.2006]。2002 年以降は、ISSP や日本・中国・韓国と共同で実施する”East Asian Social Survey”(EASS)に参加し、国際比較調査としての役割も担っている。

特筆すべきは TSCS の素データ自体がすべて二次データとして一般公開されていることである。TSCS のウェブサイトのデータダウンロードコーナー(5)で名前やメールアドレスなどを入力すれば、すぐにデータをダウンロードすることができる(データは SPSS 版と Stata 版があり、中国語のホームページからは中国語版データ、英語のホームページからは英語版データがダウンロード可能)。

2-2　総合モジュール、宗教モジュール

宗教関連の設問が比較的豊富に設定されているモジュールは二つある。1 つは総合モジュールである。このモジュールでは特定のトピックに特化せずに幅広い領域にわたる設問を設けており、その中の一部分としていくつかの宗教関連設問も組み込まれている。総合モジュールは 1985 年、1990 年、1995 年、2000 年、2005 年、2010 年の計 6 回実施された。2 つ目は宗教モジュールである。こちらはまさに宗教に特化した調査であり多数の宗教関連設問が組み込まれている。宗教モジュールは 1994 年、1999 年、2004 年、2009 年の計 4 回実施された。なお 2009 年の宗教モジュールでは ISSP の宗教モジュールの設問も一部組み込まれ、部分的に国際比較が可能になっている。それでは実際にどのような設問が設けられているのだろうか。次章で設問のいくつかを見てみたい。なお宗教行動・意識教意識の項目では、共通性の高い設問であっても離れて配置されているものがある（気功と風水など)。調査時点ではそれぞれ関連の強い一続きの設問として配置されている［瞿 2006a］ため、調査票の順番通りに配置した。

３．TSCS の宗教関連設問

3-1　総合モジュールにおける宗教関連設問

まず総合モジュールにおける宗教関連設問を、最新の総合モジュールである 2010 年データ(以下 TSCS-2010)から見てみたい。TSCS-2010 には以下の宗教関連設問が設定されている(カッコ内は設問番号)。

(1)＜信仰:デノミネーション＞「信仰する宗教名(11a)」「入門してからの年数(11b)」「入門を授けた際の僧侶の名前(11b1)」

(2)＜宗教行動＞「寺院・廟・神壇・教会に行く頻度(43a)」「ネット上での占い・祈願行動などの経験の有無(43b)」

(3)＜宗教意識＞以下の項目について 4 件法で賛否を尋ねている。「死後も人の魂は存在する(44a)」「結婚式や葬式、開業、引越の時にはまず日柄を考えるべきである(44b)」「死後は子孫に祀られるのがよい(44c)」「家を買うに時にはまず風水を考えるべきである(44d)」「一生懸命働けば、神に頼る必要はない(44e)」

3-2　宗教モジュールにおける宗教関連設問

次に宗教モジュールにおける宗教関連設問について最新の宗教モジュールである 2009 年データ(以下 TSCS-2009)からその具体例を見てみよう。TSCS-2009 には宗教関連設問を含め 100 問近い設問が設けられている。ここでは ISSP

用の設問は割愛し[6]、TSCS 独自の宗教関連設問を見てみたい(カッコ内は設問番号)。

(1)＜信仰:デノミネーション＞「現在信仰する宗教名(本人)(15)」「信仰開始年(本人)(15a)」「信仰開始時の居住地域(本人)(15b)」「信仰開始年(本人)(15a)」「信仰開始時の居住地域(本人)(15b)」「現在の宗教について入信儀礼を受けたかどうか(17)」「何という入信儀礼か？(18)」「入信を授けた人の名前(18a)」「入信儀礼を受けた年(19)」「以前信仰していた宗教名(本人)(16)」「信仰する理由(34)」

(2)＜宗教団体への所属＞「①佛光山②台湾禅宗佛教③法鼓山④中台山⑤慈済會⑥法輪功の各団体への所属の有無(27)」

(3)＜宗教行動＞「祖先祭祀行動の有無(14)」「寺院・廟・神壇・教会に行く頻度(35)」「巡礼に参加した経験(36)」「宗教団体に寄付をした金額(64)」。

宗教行動の設問のなかの以下のものは風水と占いに特化したものである。「家族が風水を見た経験(51)」「家族が家のことで風水を見た経験(52)」「職場の上司が職場のことで風水を見た経験(53)」「ネット上で占いをした経験(54)」「自ら進んで占いをしてもらった経験(55)」「①八字②紫微斗数③手相・面相④模骨⑤星占・星座占いのそれぞれをした経験(56)」。

またスピリチュアリティ行動に特化した以下のような設問も設けられている「①自然療法や代替療法など②スピリチュアルな書籍を読む③気功や瞑想などの鍛錬④ヨガ⑤マッサージや民間療法⑥太極拳のそれぞれを行った経験(57)」「神秘体験の有無(58)」「①スピリチュアリティ関連雑誌・書籍の購入②スピリチュアルなテレビ番組・映画や③スピリチュアルな音楽 CD・DVD の視聴④水晶などのスピリチュアルな石や⑤スピリチュアルなオイルの使用経験(61)」。

(4)＜宗教意識＞以下の項目について 4 件法(とてもそう思う～全くそう思わない)で尋ねている。「宇宙には唯一の最高神が存在する(28-1)」「死後も人の魂は存在する(28-2)」「祀られない魂はこの世をさまよう(28-3)」「憑依現象は存在する(28-4)」「誰と出会い、誰と一緒になるかは前世で決められている(28-5)」「悪い相手と結婚するのは前世の報いである(28-6)」「子供のためにあくせく働くのは前世の報いである(28-7)」「気功で病気を治せる(28-8)」「人の気は鍛錬で強くできる(28-9)」「『気』がとても強ければ、何物もその人を害することはできない(28-10)」「陰陽の調和を保つことで、心身健康になる(28-11)」「病気の原因は小磁場(人)と大磁場(宇宙)の不調和にある(28-12)」「霊魂の存在は科学で証明できる(28-13)」「一生懸命働けば、神に頼る必要はない(29-1)」「死後は子孫に祀られるのがよい(29-2)」「善行と悪行は子孫の幸福に影響する(29-3)」「善行と悪行はその人のその後の人生に影響する(29-4)」「成長には霊的成長も含まれていなければならない(59-1)」「宗教団体に参加しなくとも、自分の霊的な修練を通じて仏や神に近づくことができる(59-2)」「潜在的な力を高めることで、神通力を身に着けられる(59-3)」「良い行いをすれば天国に行き、悪い行いをすれば地獄に行く(80-3)」「良い行いをする人は、来世でも良い生活を送れる(80-5)」

以上 TSCS-2010 と TSCS-2009 の宗教関連設問を見てみると、宗教行動については祖先祭祀、風水、太極拳、インターネット占い、大規模仏教教団への所属など、また宗教意識については因果応報意識、気功意識、祖先意識など台湾の宗教状況を踏まえたユニークな設問が多数設けられている様子が見受けられる。そしてこれらの質問に加えて、社会―人口学的属性や様々な社会意識に関する設問も設けられているため、社会的属性と多面的な宗教性、さらに多面的な宗教性と様々な社会意識との関係を分析することができる(なお宗教モジュールと総合モジュール以外のモジュールにも信仰する宗教や寺院などに行く頻度などの基本的な設問が含まれている)[7]。

４．TSCS を用いた宗教研究

それでは TSCS を用いた台湾の宗教の実証研究としてこれまでにどのような研究が行われてきたのだろうか。本章では比較的入手しやすい研究を紹介してみたい。

①瞿海源『宗教、術数與社会変遷(一)―台灣宗教研究、術數行為研究、新興宗教研究―』[瞿 2006a]

瞿海源は台湾を代表する宗教社会学者であり、2012 年まで台湾大学教授・中央研究院社会学研究所研究員を務めた。瞿自身も TSCS の調査リーダーや宗教モジュールの調査メンバーを務めた経験がある。本書およびその続巻である瞿[2006b]は瞿が発表してきた宗教関係の研究を集めた論文集である。TSCS を用いた宗教研究は本書の以下の章に収録されている(8)。

第 2 章　台灣民眾的宗教信仰與宗教態度
第 6 章　塵世的付出 來世的福報
第 8 章　台灣新興宗教信徒之態度與信仰
第 9 章　術數、巫術與宗教行為的變遷與變異
第 10 章 術數流行與社會變遷
第 11 章 占星星座在台灣流行的研究

これらの章の分析内容は多岐にわたるが、いずれの分析においても、社会―人口学的属性や宗教的態度がどのようにして様々な宗教行動に影響を与えているのかを回帰分析などの多変量解析を用いて分析するのが基本である。第 9 章、第 10 章、第 11 章では、当時の台湾で占いやオカルトが流行したことを踏まえて、占星術、占い、呪術などの規定要因(学歴、職業など)を丹念に検討していて興味深い。

②朱瑞玲・瞿海源・張苙雲編『台灣的社會變遷 1985-2005:心理、價值與宗教(台灣社會變遷基本調查系列三之 2)』

本書は台湾社会変遷基本調査シリーズ(全 4 巻)の第 2 巻である。このシリーズは 1985 年～2005 年の TSCS の分析から約 20 年間の台湾の社会変動を明らかにすることを目指した論文集である。第 1 巻は家族研究、第 3 巻は社会階層・労働研究、第 4 巻はメディア・政治研究)がテーマであり、ここで取り上げた第 2 巻は社会意識論・社会心理学がテーマである。第 2 巻収録の宗教関係の実証論文は以下の 5 編である。

第 3 章　朱瑞玲・周玉慧「臺灣社會的慈善觀念與道德感」
第 4 章　陳杏枝「祖先信仰變遷的初探」
第 5 章　林本炫「 地理流動與宗教信仰變遷」
第 6 章　郭文般「宗教的持續與變遷」
第 7 章　瞿海源「宗教與術數態度和行為的變遷(1985-2005)―檢驗世俗化的影響」

これらの章では複数時点の TSCS を用いて台湾における宗教変動を検討している。具体的には、因果応報的慈善意識を含む慈善意識に対する年齢・世代・時代効果の検証(第 3 章)、祖先祭祀行動や霊魂観、風水行動の変容(第 4 章)、都市化と地域移動が宗教移動に与える影響(第 5 章)、世俗化による呪術意識の変容(第 6 章)、学歴と宗教意識・呪術意識の関係の変容(第 7 章)などが TSCS から分析されている。

③TSCS を用いた学術論文・書籍論文

第 2 章で述べたように TSCS の素データは二次データとして一般公開されている。そのため台湾の宗教の計量研究を行いたい研究者は TSCS のデータセットをダウンロードして自由に分析することができる。それでは TSCS を用いた計量的宗教研究として具体的にどのような研究が行われているのだろうか。TSCS のウェブサイトのデータ利用論文検索システムで「宗教」「信仰」「Religiosity」などのキーワードを入力して検索にかけたところ、以下の 22 編の学術論文・書籍論文が検出された(9)。以下、いくつかのテーマごとに紹介する。

第 1 に宗教の規定要因に関する研究である。この研究の特徴は、合理的選択理論や宗教経済モデル分析などの近年の欧米の宗教社会学の理論を踏まえた分析を行っていることである。前者については合理的選択理論の 1 つである「リスク志向性理論(risk-preference theory)」の妥当性を台湾で検証した以下の論文があげられる。

・Liu,Yang E 2010　“Are Risk-Taking Persons Less

Religious? Risk Preference”Religious Affiliation,and Religious Participation in Taiwan.”*Journal for the Scientific Study of Religion* 49(1): 172-178.

後者はいずれも経済学者が手掛けた分析であり、行動経済学理論を踏まえながら宗教行動に関する数理モデルをたて、寺院などに行く頻度や宗教団体への寄付金額の規定要因を分析する。

・郭錦添 2001「宗教活動的經濟分析－台灣的實證─」『經濟論文叢刊』29(1): 1-19。

・ Chang,Wen-Chun 2006 “Determinants of Religious Giving in an Eastern-Culture Economy: Empirical Evidence from Taiwan.”*Review of Religious Research* 47(4): 363-379.

・Chou,Tungshan and Hiewu Su 2011 “When Financial Information Meets Religiosity in Philanthropic Giving: The Case of Taiwan.”*World Review of Business Research* 1(1): 150-165.

・Tao,Hung-Lin and Powen Yeh 2007 “Religion as in Investiment: Comparing the Contributions and Volunteer Frequency among Christians, Buddhists, and Folk Religionists.”*Southern Economic Journal* 73(3): 770-790.

第 2 に宗教と他の社会意識・行動との関係を取り上げた研究も見受けられる。最も多いのは主観的健康との関係を論じた以下の論文である。

・劉一蓉 2010「內發與外誘宗教動機與生活滿意度的關係－以台灣四個不同宗教傳統的老人與大學生為樣本的試驗性研究─」『安寧療護雜誌』14(3): 254-274。

・Chang,Wen-Chun 2010 “Religious Attendance and Subjective Well-Being in an Eastern-Culture Country: Empirical Evidence from Taiwan.”*Marburg Journal of Religion* 14(1): 1-30.

・Liu,Yang E. 2009 “Beyond the West:Religiosity and the Sense of Mastery in Modern Taiwan.”*Journal for the Scientific Study of Religion* 48(4): 774-788.

・Liu,Yang E., Scott Schieman. and Sung Joon Jang 2010 ”Religiousness, Spirituality, and Psychological Distress in Taiwan.”*Review of Religious Research* 53(2): 137-159.

・Liu,Yang E., Harold G.Koenig and Dedon Wei 2011 ”Discovering a Blissful Island: Religious Involvement and Happiness in Taiwan.”*Sociology of Relgion* 73(1): 46-68.

また政治行動･意識との関連も扱われている。以下、順に、抗議行動への参加、政治行動・民主主義的態度、直接民主主義支持態度、再分配政策への評価を扱っている。

・Chang,Wen-Chun 2010 “Buddhism, Taoism, Folk Religions, and Rebellions: Empirical Evidence from Taiwan.”*Journal of Asian and African Studies* 45(4): 445-460.

・ Kuo,Cheng-Tian and Ping-Yin Kuan 2008 “Statistical Analysis.” In Kuo,Cheng-Tian *Relgion and Democracy in Taiwan*,State University of New York Press, 87-113.

・ Chang,Wen-Chun 2010 “Religion and Preferences for Redistributive Policies in an East Asian Country.”*Poverty & Public Policy* 2(4): 81-109.

以下のように向社会的行動と宗教の関連も扱われている。

・李丁・盧雲峰 2010「華人社會中的宗教信仰與公共參與─以臺灣地區為例─」『學海』3: 57-69。

・Tao,Hung-Lin and Powen Yeh 2007 “Religion as in Investiment: Comparing the Contributions and Volunteer Frequency among Christians, Buddhists, and Folk Religionists.”*Southern Economic Journal* 73(3): 770-790.

宗教と教育の関係も扱われている（前者は教育アスピレーション、後者は教育達成）。

・Zhai,Jiexia E. and Robert D.Woodberry 2011 “Religion and Educational Ideals in Contemporary Taiwan.”*Journal for the Scientific Study of Religion* 50(2): 307-327.

第 3 に宗教変動に関する研究である。以下の 2 つの論文がある

・陳杏枝 2008「外省人宗教信仰變遷初探－1984

年至 2004 年台灣地區社會變遷基本調查資料分析―」『東吳社會學報』23: 107-138。

・Lu,Yunfeng, Byron Johnson and Rodney Stark 2008 “Deregulation and the Religious Market in Taiwan: A Research Note.”*The Sociological Quarterly* 49: 139-153.

前者は複数時点の TSCS を用いて外省人の宗教の変容を論じ、後者は宗教市場の開放に伴う宗教の隆盛などを論じている。

第 4 に中国と台湾の比較分析である。まず中台の宗教政策の違いがそれぞれの宗教状況の違いにどう影響を与えているかを信者人口の比較などから論じている。

・Tang,Wenfang 2001 “Religion and Society in China and Taiwan: Evidence from Survey Data.” In Hua,Shiping (ed.) *Chinese Political Culture 1989-2000*, M.E.Sharp, 298-319.

・ Zhai,Jiexia E. 2010 “Contrasting Trends of Religious Markets in Contemporary Mainland China and in Taiwan.“*Journal of Church and State* 52(1): 94-111.

また中国と台湾における民間信仰実践者の比較をした以下の研究もある[20]。

・Yang,Fenggang and Anning Hu 2012 “Mapping Chinese Folk Religion in Mainland China and Taiwan.”*Journal for the Scientific Study of Religion* 51(3): 505-521.

先に取り上げた Donata の論文でも日韓台中の東アジア比較が行われている。

以上の研究を概観してみると、多様な視点から TSCS を用いた宗教研究が行われている様子が見えてくる。すなわち都市化や地域移動、エスニシティといった台湾の社会構造・社会変動を組み込んだ宗教研究、合理的選択理論の検証や社会意識の規定要因としての宗教といった欧米の宗教社会学の議論を踏まえた宗教研究、中国との比較宗教研究などの様々な視点から台湾の宗教を分析している様子がうかがえる。

５．まとめに代えて

本報告では、東アジアにおける大規模宗教調査データの蓄積と活用の成功例として、台湾で行われている TSCS を取り上げた。TSCS で用いられている宗教関連設問を紹介し、TSCS を用いた実際の宗教研究を著作、論文集、雑誌・書籍論文からピックアップして TSCS を用いた研究の広がりを紹介した。

以上の記述から、TSCS が台湾の宗教研究に対してもつ意義は以下の 3 点にまとめることができよう。第 1 に台湾の宗教状況を踏まえた設問を設定していることである。信仰する宗教名などの欧米の宗教調査の定番ともいうべき設問はもちろんのこと、風水や気功、祖先祭祀などの台湾の宗教状況を踏まえた設問も多数設けている。このことはより台湾の宗教状況に即した計量分析を可能ならしめている。

第 2 にこのようなユニークな宗教調査データを繰り返し実施し、時点間の比較を可能にしていることである。もちろん調査票によって設問の入れ替わりはあるが、15 年～30 年にわたるトレンドを追うことは十分可能である。こうした蓄積は台湾のような大きな社会変動を経た地域において社会変動と宗教変動がどう結びついているかを分析可能とする。

第 3 にこのようにして蓄積された膨大なデータをすべて二次データとして一般公開していることである。調査データを調査者だけで専有せずに広く利用可能にすることは、第 4 章でみたとおり様々な視点をもった研究者によるデータの再分析を可能とする。TSCS の二次データ化が台湾の宗教研究に活気を与えている大きな要因の 1 つと思われる。

TSCS は台湾のみならず日本を含めた東アジアにおける宗教研究にとっても少なからぬ示唆をもつ調査であると思われる。たとえば TSCS の設問の応用可能性である。第 3 章でみた祖先崇拝や占いなどに関する設問は、日本においても十分意味をもつだろう。今後日本で宗教調査を行う場合、TSCS の設問を組み込んだり、台

湾との比較の視点を盛り込むなどの方向性が考えられる。また TSCS の二次データ化が台湾の宗教に活気を与えていることは、既存の宗教調査データを二次データ化していくことに少なからぬ意義があることを示唆していると思われる。

もっとも TSCS の蓄積はあくまで台湾の調査環境(調査資金、調査体制など)のもとで可能になったものである。調査環境が異なる他地域においては必ずしもその多くが応用可能になるわけではない。しかしながら、今後も TSCS は、台湾における宗教研究において主導的な役割を担っていくのみならず、東アジアにおける計量的宗教研究の一つの到達点として、インプリケーションに富んだ重要な参照点になっていくだろう。

6　補足 TSCS 関連の出版物・報告書

(論文集)

伊慶春・章英華編 2012『台灣的社會變遷 1985-2005:家庭與婚姻(台灣社會變遷基本調查系列三之 1』台北、中央研究院社會學研究所。

朱瑞玲・瞿海源・張苙雲編 2012『台灣的社會變遷 1985-2005:心理、價值與宗教(台灣社會變遷基本調查系列三之 2)』台北、中央研究院社會學研究所。

謝雨生・傅仰止編 2012『台灣的社會變遷 1985-2005:社會階層與勞動市場(台灣社會變遷基本調查系列三之 3)』台北、中央研究院社會學研究所。

張茂桂・羅文輝・徐火炎編 2013『台灣的社會變遷 1985-2005:傳播與政治行為(台灣社會變遷基本調查系列三之 4)』台北、中央研究院社會學研究所。

(宗教モジュール)

傅仰止・杜素豪編 2010『台灣社會變遷基本調查計畫第五期第五次調查計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所。

章英華・傅仰止編 2005『台灣社會變遷基本調查計畫 第四期第五次調查計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所。

章英華編 2000『台灣社會變遷基本調查計畫 第三期第五次調查計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所。

瞿海源編 1994『台灣地區社會變遷遷基本調查計畫 第二期第五次調查計畫執行報告』台北、中央研究院民族學研究所。

(総合モジュール)

章英華・杜素豪・廖培珊編 2011『台灣社會變遷基本調查計畫第六期第一次調查計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所。

章英華・傅仰止編 2006『台灣社會變遷基本調查計畫第五期第一次調查計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所。

章英華・傅仰止編 2000『台灣社會變遷基本調查計畫第四期第一次調查計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所。

瞿海源編 1995『台灣社會變遷基本調查計畫第三期第一次調查計畫執行報告』台北、中央研究院民族學研究所。

瞿海源編 1991『台灣地區社會變遷基本調查計畫第二期第一次調查計畫執行報告』台北、中央研究院民族學研究所。

楊國樞・瞿海源編 1993『台灣地區社會變遷基本調查計劃第一期調查計劃執行報告』台北、中央研究院民族學研究所。

(シンポジウム資料)

中央研究院社會學研究所 2001『宗教與社會變遷:第三期第五次台灣社會變遷基本調查之研究分析研討會』台北、中央研究院社會學研究所。

———2007『台灣的社會變遷 1985～2005:台灣社會變遷基本調查第十一次研討會』台北、中央研究院社會學研究所。

———2011『宗教信仰:臺灣社會變遷基本調查第十五次研討會』台北、中央研究院社會學研究所。

謝辞

本稿は、中央研究院社会学研究所の訪問学人

として行った研究成果の一部である(在籍期間は 2012 年 7 月 23 日～9 月 23 日)。在外研究に当たっては北海道大学大学院文学研究科「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」からの経費支援を受けた。本報告は、2012 年第 4 回「宗教と社会貢献」研究会での小報告「台湾における在外研究の成果報告―「台湾社会変遷基本調査」を用いた宗教研究および「宗教と利他主義」研究―」に基づく。本研究は日本学術振興会科学研究費補助金(若手研究 B)「台湾における宗教と利他主義に関する社会学的研究」(研究代表者:寺沢重法)および日本学術振興会科学研究費(基盤研究 B)「東アジアにおける宗教多元化と宗教政策の比較社会学的研究」(研究代表者:櫻井義秀)の研究成果の一部である。

註

(1) ARDA に寄託されている非キリスト教圏の宗教調査データとしては「Spiritual Life Study of Chinese Residents」(中国、2007 年実施)や「Youth, Emotional Energy, and Political Violence: The Cases of Egypt and Saudi Arabia Survey」(エジプトおよびサウジアラビア、2005 年実施)が挙げられる（ARDA の URL は http://www.thearda.com/, 2014.10.26）。

(2) 近年の日本では台湾の宗教社会学の動向はほとんど報告されていない。本稿は宗教調査データという限定つきではあるものの、近年の台湾の宗教社会学の動向の一端を示すという意味もあるだろう。なお台湾の宗教社会学の動向は瞿[2008]が詳しい

(3) 本稿は筆者が執筆したコラム[寺沢 2013]の内容を大幅に加筆修正したものである。

(4) 台湾以外の東アジア地域で実施されている GSS としては、JGSS(Japanese General Social Surveys、2000 年開始)、KGSS(Korean General Social Survey2003 年開始)、CGSS(Chinese General Social Survey、2003 年開始)がある。

(5)http://www.ios.sinica.edu.tw/sc/en/scDownload.php, 2014.10.26。

(6) ISSP の調査項目などは ISSP の HP(http://zact.gesis.org, 2014.10.26)を参照のこと。

(7) 集計結果の一部は以下で閲覧可能（http://www.ios.sinica.edu.tw/TSCpedia/index.php/%E5%AE%97%E6%95%99, 2014.10.16)。

(8) 全文と英訳（一部）は瞿の HP で公開(http://www.ios.sinica.edu.tw/hyc/index.php, 2014.10.26)。

(9) 雑誌と書籍論文以外にも学会・シンポジウム発表資料・学位論文などが多数検出されたが、数が多くまた入手が難しいことから本報告では割愛した。

参考文献

瞿海源 2006a『宗教、術數輿社会変遷(一)―基督教研究、政教關係―』台北、桂冠圖書公司。

――――2006b『宗教、術數輿社会変遷(二)―基督教研究、政教關係―』台北、桂冠圖書公司。

――――2008「台灣宗教社會學的發展」『宗教社會科學』1: 251-276。

Grim,Brian J.and Roger Finke 2010 *The Price of Freedom Denied: Religious Persecution and Conflict in the Twenty-First Century*, Cambridge University Press.

Norris,Pippa and Ronald Inglehart 2011 *Sacred and Secular: Religion and Politics Worldwide 2nd ed.*,Cambridge University Press.

Smith,Tom W.,Kim Jibun, Koch Achim and Park Alison 2006 "Social Science Research and the General Social Surveys."*Comparative Sociology* 5(1): 33-43.

寺沢重法 2013「Column 世界の調査／日本の調査 台湾社会変遷基本調査(TSCS)」『社会と調査』10: 121。